

山椒は小粒でも…

Vol.40

マスクなし、違和感



家を出て、あるいは車から降りてしばらくして、「何か変」だとちよつと違和感を感じ、マスクを忘れたことに気づいて、思わず手のひらを口にあてたことはありませんか？マスクがないとスースーして頼りない感じ。表面はもちろんいつのまにか、マスクによって心の中まで守られているような気がしますね。

地方の鳥羽においても、外出時はほぼみなさんマスクを着用しています。ニューノーマル(生活様式の新しい常態)を代表するマスク・手洗い・うがいとソーシャルディスタンスを保つ3密回避は、コロナが収束したとしても定着していくのでしよう。

さて、先月号で紹介した市民体育館の内覧会を開催したところ、11月15日には東京2020オリンピック聖火がやってきました。約1400人ものかたがたに來場していただきました。屋外に

はオリンピック聖火リレーをPRするトラックも来ていて、トーチの前で笑顔で記念写真を撮るグループのにぎやかな空気があふれていました。

私もサブアリーナの外まで続く列に並びましたが、サブアリーナの舞台上に置かれた聖火にたどりつくまでに30分ほどかかりました。並んでいる最中、私の前後は市外県外のバイクのライダーのグループで、聞くところによるとツーリングの途中、このイベントを目にし立ち寄ったとのこと。聖火の力恐るべしです。コロナ禍もあり、大規模なイベント実施は難しいかもしれませんが、アフターコロナに向け、この体育館を含む中央公園全体の活用をパークリノベーションと称して検討中です。総務省の地域おこし企業人の制度を利用してスポーツ施設の枠を超えた市民の健康や交流の拠点となるべく知恵を出し合っています。

11月30日から12月議会が始

まりました。第12号の補正予算の議案を上程しています。今年例年になく補正が多くなっており、コロナ関連がほとんどで、異例の一年です。近隣市町のコロナ対策と比較されて金額が少ないとか、〇〇市がやっているのに鳥羽はやらないのか、といったことも言われるのですが、その逆もまたあります。主産業の観光と漁業の活性化が鳥羽の元気につながるように、プレミアム付き商品券を発行して市民生活と商店の支援をしたり、また、お気づきでないかたも多いのですが、4〜12月の水道基本料金をゼロにするなど、数々の対策を重ねてきました。

今回のコラムもコロナで始まりコロナで終わってしまいました。コロナも第3波が到来かといわれる中で、いつものような年末年始とはならないようですが、「ご自愛の上よいお年をお迎えください！」

今年も第3波が到来かといわれる中で、いつものような年末年始とはならないようですが、「ご自愛の上よいお年をお迎えください！」



聖火展示と同時開催のスマートフェンシングを体験しました



Vol.199

市民課人権・市民交流係
☎ 1126

思いやるこころ

法務省および全国人権擁護委員連合会が主催する「第39回全国中学生人権作文コンテスト中央大会」において、全国人権擁護委員連合会長賞に『ふつ』の多数決」というタイトルの作文が選ばれました。この作文の中で、幼い頃から『ふつ』の概念について疑問を抱いてきた作者が、『ふつ』かどうかは、しよせん多数決にすぎないということに気がついたため、自分の『ふつ』と誰かの『ふつ』が異なっていたとしても、そのことで悩む必要はない、とこういうようなことを述べています。

切な会議などの場面においてまで、便利な採択方法として取り入れられています。

多数決による決定は、場面によっては物事が早く決まり、とても効率的な方法であると言えますが、一方で、この方法により何かの決断を行う時は、多数派であっても少数派であった個々の意見を尊重すること、互いの意見を思いやることを忘れないことが大切です。

この作文の作者は文末に、自分の考えや意見、趣味嗜好が、ほかの大多数の人と異なっていたとしても、自分を表現することは自由であり、基本的人権のひとつである、と述べた上で「僕はこのままの僕でありたい」と力強く括弧しています。

12月4日〜10日は、法務省および全国人権擁護委員連合会が定めた「人権週間」です。この週間にちなみ、自分と誰かの違いを認め合い、思いやるこころを持つこと、また、ありのままの自分を表現することについて、考えてみませんか？

